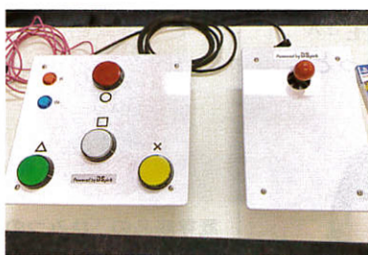


on monday
月曜訪問

県×ディースピリット×愛大



昨年度開発したコントローラー

産官学で障がい者向けにeスポーツのコントローラーを開発

県は、コンピュータゲームを使った対戦「eスポーツ」を障がいのある人たちに楽しんでもらおうと、産官学連携で専用コントローラーの開発事業を進めている。

昨年度からスタートした同事業。AIを活用したソリューションの開発やロボット開発などを手掛ける(株)ディース

ピリット(松山市、大野栄一社長)が協力している。

昨年度は1台のコントローラーを開発。今治の障がい者支援施設に通っている女性向けにオーダーメイドで作った。大野社長によると、女性は脳性まひで手や足の可動域が狭

いことから、ボタンを大きくしたり、手と足の両方で操作できるようにしたという。

今年度は愛媛大学の教授や学生が参加し、産官学連携で実施。募集を掛け、応募のあった6人の障がい者それぞれに合わせたコントローラーの製作に取り組んでいる。

現在オンラインでヒアリングを行っており、年内には完成させる計画。手の動きを見

たり、絵を使ったりしながらヒアリングする。

「個々の障がいの度合に合わせ、ボタンの配置や力加減の大きさなどを調整する。その人の可動範囲で操作でき、使いやすいものを作りたい」(大野社長)としている。

今回製作するコントローラーは、県内の障がい者就労施設で組み立てる計画。コントローラーでの操作は、リハビリにも役立つと期待が寄せられているという。

県では、数年前から障がいのある人を対象にしたeスポーツの推進に取り組んでおり、県内の障がい者支援施設等にゲーム機器の貸与などを行っている。